

TOOTH FAIRYプロジェクト 今後の事業計画のご提案



TOOTH
トウス フェアリー
FAIRY

目次

TOOTH FAIRYプロジェクトとは	2
チャレンジキッズプロジェクト	
現状	4
コンセプト	5
2013年度までの成果	6
2014年度の目標	10
支援事業・団体の選定方法・プロセス	12
2014年度事業計画(案)	13
スクールプロジェクト	
現状	21
コンセプト	22
2013年度までの成果	23
支援団体の選定方法・プロセス	25
目標	26
2014年度事業計画(案)	27
収支計画案	28
実施プロジェクトの概略と2015年以降の支援方針について	30

本プロジェクトは、治療上撤去した不要な冠などの金属をご寄付いただくことで進めているチャリティープロジェクトです。

<TOOTH FAIRYプロジェクト概要>

- 主催 日本財団
- 協力 公益社団法人日本歯科医師会
- 開始 2009年6月1日
- 実績(2014年3月31日現在)

参加歯科医院数	5,637医院
寄付総額	767,159,177円 ※売却金額から預かり消費税相当額を引いた額
支出総額	360,942,694円 (事業費計 340,891,000円・分析手数料 20,051,694円)
繰越額	406,216,483円

<プロジェクト名の由来>

TOOTH FAIRY(歯の妖精)とは、抜けた乳歯を枕元に置いて寝ると、歯の妖精が夜中にこっそりもらいに来て、子どもたちへのプレゼントに交換してくれるという、西洋のおとぎ話です。TOOTH FAIRYプロジェクトという名称は、このおとぎ話にちなんでつけられたもので、歯科撤去金属のご寄付による資金は、国内外の子どもたちに夢や笑顔を届けることを目的にしています。

<実施している2つのプロジェクト>

■チャレンジキッズプロジェクト

日本国内において重い病気や障害と闘っている子どもたちとその家族に対する支援は欧米諸国と比較して大きな後れをとっています。チャレンジキッズプロジェクトではこうした子どもと家族の支援を進めています。

■スクールプロジェクト

途上国では貧困が原因で夢をあきらめなくてはならない子どもたちが大勢います。スクールプロジェクトでは途上国の子どもたちが直面する貧困の連鎖を改善することを目的に学校建設事業を進めています。

< 歯科医師による寄付と技術協力で日本一の社会貢献へ >

支援対象となる難病や貧困と闘う子どもたちの多くは、「口腔ケア」が十分に行き渡っていないケースが多いのが現状です。TOOTH FAIRYでは、子どもたちの支援を行う団体に対し資金援助を行うだけでなく、TOOTH FAIRYに参加する歯科医師へ事業へのボランティアによる参加を呼びかけ、子どもたちに口腔ケアの必要性を啓発していただくご協力も頂いています。

資金協力と技術協力の両面からの支援を、本プロジェクトの規模で実施している例は見当たらず、歯科医師によるCSR活動が大きな評価を得るところとなっています。



チャレンジキッズプロジェクト 現状



小児医療の水準向上に伴い、これまでは助けることができなかった生命が、助かるようになってきました。その一方、呼吸器などの医療機器を使用しなければ、生命を維持することが難しい医療依存度の高い子どもが増加しており、そうした超・準超重症児を含む、いわゆる難病の子どもが、日本国内におおよそ20万人いるといわれています。

その結果、小児病棟は常に満床に近い状況となり、在宅ケアが迫られていることから、患児とその家族に対するサポート体制の充実が非常に重要となっています。また、看護に伴う家族の精神や身体へのストレスは非常に大きく、QOLの向上に対する支援の充実も求められています。

欧米では1980年代からこうした難病の子どもと家族を支える小児ホスピスの理念が認知され様々なサービスが展開されていますが、日本での取り組みは始まったばかりです。

加えて、各地で手探りに始まった、難病児へのレスパイトの取り組みも緒についたばかりで、団体間での問題の洗い出しや共有化を進めることも今後の課題となっているのが現状です。

チャレンジキッズプロジェクト コンセプト

【難病の子どもたちとその家族が豊かな地域生活を送るために】

TOOTH FAIRYは、先行する欧米の小児ホスピスの理念である「子どもたちの生活の質(QOL)の向上と家族のサポート」を念頭に、地域で暮らす医療依存度の高い子どもとその家族の暮らしが、心身ともに豊かなものとなるよう、社会資源を活用したレスパイトの仕組みを作っていくことを目的としています。

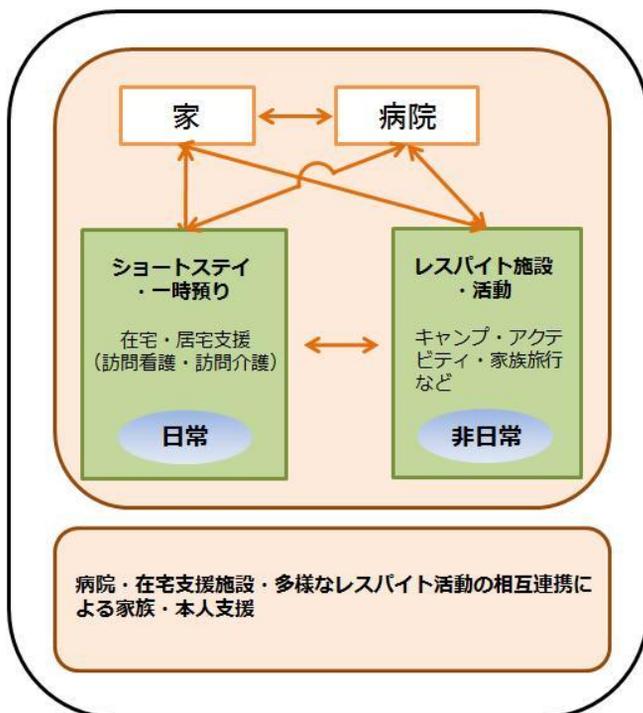
そのためには、日々の暮らしを支える身近なサポートとしての日常的な支援と、普段の生活では味わうことが難しい、いわば非日常的な支援の両面が必要だと考えています。

【日常的支援】・・・日常生活を支える身近なサポート

365日、休みなく外出もままならない状況で介護を続ける家族へのサポートとして、日常的に利用可能なデイサービス等を提供する施設の拠点づくりやレスパイトサービスの提供は、必要不可欠な支援でありながら、まだ開拓途上の分野であり、サービスのモデル作りが必要です。

【非日常的支援】・・・日常生活とは異なる豊かな余暇時間を提供するサポート

重い病気を抱えながらも日々成長を重ねる子どもたちへ、家と病院の往復になりがちな日常では味わえない余暇の活動を提供することで、明日を生きる力が生まれてくるものと考えています。そのため、難病の子どもとその家族が安心して参加することのできる非日常的な活動についても、多様なスタイルを提示していくことを目指しています。



チャレンジキッズプロジェクト 2013年度までの成果



チャレンジキッズプロジェクトでは、これまでに施設整備事業1件、生活支援事業3件、ネットワーク構築事業1件の支援を進めて参りました。

施設整備事業では、家族が離ればなれになることなく、一緒に闘病生活に臨むことができるクリニック併設型の滞在施設である小児がん専門施設、チャイルド・ケモ・ハウスが、神戸に完成しました。開所間もないこともあり、滞在施設の利用はこれからという状況ですが、併設のクリニックには退院した子どもたちの通院が始まっています。今後、滞在施設の利用も広がることで、子どもとその家族にも笑顔が広まっていくことが期待されます。

一方、神奈川県大磯の地で開設を目指していた小児ホスピス「海のみえる森」プロジェクトは、さまざまな試行における当初計画の変更に伴い、TOOTH FAIRYの寄付金を活用して行う事業としては中断し、日本財団の自主事業として継続させ、具現化の可否について検討しています。

生活支援事業では、全国各地で実施したキャンプや家族旅行サポートなどに、多くの難病の子どもとその家族が参加し、病氣と向き合う日頃の生活では体験できないような、様々なアクティビティを思いっきり楽しみました。参加した子どもの中には、病状の経過が思わしくなく、残念ながら、その後に亡くなる子どももあり、まさに一生の思い出をつくるお手伝いをする事業であるともいえます。

ネットワーク構築事業では、全国で小児レスパイト施設を運営または計画している7つの団体が集まり、施設の運営状況、サービス、医療サポート、ボランティアの管理、資金調達、ミッションなどについて、事例共有や意見交換を行いました。この分野では、法人の間の横の連携が十分に進んでおらず、それぞれ同じように、難病の子どもと家族のために活動していても、情報やノウハウが流通せずに活用されないことから、単独での課題解決によって余分な時間を要することが少なくありません。今後、こうした機会を通して、法人の間の情報流通を活性化させ、組織運営の強化、サービスレベルの向上、新たな支援事業や連携事業の提案などが行われることで、よりよいサービスが、難病の子どもとその家族に届けられるようになることが期待されます。

チャレンジキッズプロジェクト 2013年度までの成果



日常の支援 ＜施設整備＞

(1) 小児がん等の難治性小児疾患の患児とその家族を支援するためのハウス 2013年度完成



- ①支援団体 : (公財)チャイルド・ケモ・サポート基金 (兵庫県)
- ②支援金額 : 300,000,000円(事業費総額:757,486,800円)
- ③事業内容 : 敷地面積:約3,500㎡
延床面積:約1,849㎡
滞在室 : 19部屋
場所 : 神戸市中央区港島中町8-5-3
対象 : 小児がん等の難治性小児疾患の患者及びその家族
共有スペース:プレイルーム、教室、キッチン、トイレ、介助用浴場、ランドリー等

非日常の支援 ＜ソフト事業＞

(1) 難病の子どもたちのキャンプの実施 2013年度実施



- ①支援団体 : (認特)難病のこども支援全国ネットワーク (東京都)
- ②支援金額 : 4,680,000円(事業費総額:4,760,612円)
- ③事業内容 : 対象 : 難病の子どもとその家族、ボランティア
場所 : ゆと森クラブ (宮城県蔵王町)
時期 : 2013年8月9日～11日 (2泊3日)
内容 : お楽しみ会、乗馬体験、芋煮会、交流会ほか
参加者数:184名(患児:85名)
参加歯科医師数:1名

チャレンジキッズプロジェクト 2013年度までの成果



非日常の支援 ＜ソフト事業＞

(2) 小児難病児のサマーキャンプ実施 2013年度実施



- ①支援団体 : (公社)日本糖尿病協会(東京都)
- ②支援金額 : 4,000,000円(事業費総額: 4,000,000円)
- ③事業内容 : 対象 : 小児糖尿病患者
(幼児～高校生)
場所 : 全国49カ所の野外活動施設
時期 : 2013年夏(47カ所)、
2014年春(2カ所)
参加歯科医師数: 5名

(3) 難病の子どもたちのレスパイトサービスの実施 2013年度実施



- ①支援団体 : (公社)難病のこどもとその家族へ夢を
(東京都)
- ②支援金額 : 4,000,000円(事業費総額: 4,000,000円)
- ③事業内容 : 対象 : 難病のこどもとその家族
場所 : 東京、千葉、大阪、青森
時期 : 2013年7月～2014年3月
内容 : ウィッシュ・バケーション(全
国から招待した難病と闘う家族
の2泊3日の家族全員旅行)
写真展と活動報告会
エピソード&写真集作成

参加者数:

ウィッシュ・バケーション23家族計94名
写真展と活動報告会248名

チャレンジキッズプロジェクト 2013年度までの成果

難病児支援実務者のネットワーク

(1) 小児レスパイト施設（子どもホスピス）実践者会議の開催 2013年度実施



- ①支援団体 : (公財)そらぷちキッズキャンプ(北海道)
- ②事業内容 : 参加者 : 小児レスパイト施設の運営者
(7法人)
- 時期 : 2013年(計3回実施)
- 内容 : 事例発表、中期計画の発表、
組織体制、ファンドレイジング、
運営など

チャレンジキッズプロジェクト

2014年度の目標



1. 日常の支援

1-1<施設整備>

(1)レスパイト拠点の整備

難病や重い障害をもった子どもたちに対して、日常的に利用可能なレスパイトサービスを提供する拠点の整備を目指しています。医療的なケアの必要が高い子どもたちを対象としたデイサービスは、医療と福祉の両面の知識や技術、そして制度を熟知している必要がありますが、制度の壁があり、これまで全国でもほとんどその取り組みが進んできませんでした。

TOOTH FAIRYでは医療職と介護職を連携させることにより、医療依存度が高い子どもたちを一時預かりすることを可能としたモデルを確立することで、今後、こうした取り組みが加速していくことを狙っています。また、本事業では、施設を整備するとともに、事業継続が自立的に可能となるように、福祉と医療の両制度を活用して、制度からの事業収入により安定した事業運営が出来る体制を築いていくことを目標にしています。

※上記施設につきましては、運営母体や運営方法が確定していないため、本2014年度事業計画には具体的な支援先は記載されていません。2014年度中に実施の準備が整った際には改めて、日本歯科医師会にご相談申し上げます。

※上記事業の実施については難病児に対する医療の専門家と同福祉の専門家と連携をとり、一定以上のレベルを満たしている団体を選定する方針です。

1-2<ソフト事業>

(1)訪問型レスパイトサービスの提供

難病の子どもとその家族の日常生活に彩りを添える、自宅への訪問型レスパイト活動を支援します。看護師、プレイワーカー、音楽療法士などからなるチームが家庭を訪問し、家族にひと時の休憩を与えたり、子どもたちの生活に遊びや安らぎを添えていきます。本サービスは、小児レスパイト施設の提供するサービスとして今後、実践団体が広がっていくことが期待されており、TOOTH FAIRYでは先駆的な活動を行う団体を支援していくことで、このようなサービスの拡大を促していこうと考えています。

※上記事業の実施については、訪問レスパイト事業において、これまで日本財団のパートナーとして実績のある団体を選定していく方針です。

チャレンジキッズプロジェクト

2014年度の目標



2.非日常の支援

2-1<施設整備>

非日常の体験を提供する小児ホスピス・小児レスパイトと呼ばれる施設は、英国のヘレン・ダグラス・ハウスに代表されるハウス型と、米国のホールインザウォール・ギング・キャンプなどをモデルとしたキャンプ型の施設があり、いずれも難病や重い障害をもった子どもたちが、普段の生活では味わえない素敵な環境の中で友だちを作ったり、大自然を満喫したりできる特別な場所です。

TOOTH FAIRYでは、こうしたハウス型やキャンプ型のレスパイト施設の設立や、手探りで始まっているソフト活動への支援を通じて、難病の子どもたちが明日を生きる力を養っていくことができる、もう一つの居場所の整備を支援していきます。

※上記のようなレスパイト施設については、現在、公的な運営費補助などがないため、土地・建物の取得の確実性、運営資金の捻出計画など、十分に準備して進める必要があります。従って、当面の間は、支援件数の目標が立てられる状況ではなく、安定した運営が見込めるものを見定め、個別に検討し進めていくことを予定しています。

2-2<ソフト事業>

大自然の中でのキャンプや、ディズニーランドなどのアクティビティに参加することは、難病の子どもたちの夢です。これらの余暇は単なる遊びではなく、子どもたちの世界を広げる大切な体験です。難病の子どもたちに、非日常の夢の経験が提供できる活動を拡大していくことを目指しています。加えて、入院中で外出が困難な患児にも、治療や行動制限によるストレスを緩和し、ひと時の非日常の楽しい時間を送ってもらえるように、病棟を訪問して実施するレスパイトプログラムの提供やその担い手の育成も進めていくことを予定しています。

※上記事業は、親の会などによる特定の受益者に対する活動は対象外とし、不特定・広域の子どもたちを対象とする活動を支援していく方針です。

3.難病児支援実務者のネットワーク

TOOTH FAIRYプロジェクトで支援する団体をネットワーク化して、各団体の実務者がそれぞれのノウハウを共有し、他団体の先進的な取り組みの視察等を実施します。経験が浅く連携の少ない日本の小児難病児支援の団体をつなぎ、切磋琢磨する機会を提供してきます。

※上記事業は、TOOTH FAIRYで支援する団体を主に対象としています。

4.その他(難病の子どもとその家族の生活の理解促進をはかる事業)

難病の子どもとその家族への理解推進のため、ドキュメンタリー映画を作成。

※上記事業は、難病の子どもとその家族と深いパイプを持ち、ドキュメンタリーの制作が可能な団体を選定して実施。

チャレンジキッズプロジェクト 支援事業・団体の選定方法・プロセス



<事業予算の規模の決め方について>

TOOTH FAIRYプロジェクトの年度予算は、原則として、前年度の繰越金の範囲内で予算化しています。従いまして、当該年度の収入は年度内には使用せず、次年度の予算として繰り越し、予算規模を調整しています。

<支援事業・団体の決定方法・プロセス>

2014年度事業計画(案)で支援を予定している事業・団体の選定方法は、目標に沿って、その目標を実現するために必要な事業を実施できるパートナーを日本財団の事務局がアウトリーチして選定しています。候補事業・団体に対する審査は、直接のヒアリング、活動視察、書類審査を行い、また必要に応じて専門家のアドバイスを受けた上で、当財団役員の承認を得るというプロセスを踏んでいます。

なお、団体の選定につきましては、コンセプト及び目標に沿っており、一定以上の成果をあげられる見込みが高い団体・事業を選定することとしているため、結果として計画した予算を下回る可能性があります。(予算を使い切ることを第一目的に事業選定をしておりません。)

チャレンジキッズプロジェクト

2014年度事業計画(案)

2014年度の支援事業については、2013年度の事業成果を踏まえ継続事業と新たな取り組みを進めて参ります。

新たに施設整備事業では、日常的にレスパイトサービスを利用できる拠点のモデル作りに取り組みたいと考えています。

ソフト事業では、これまで、主に退院して在宅で医療ケアを受けている、難病の子どもを対象としたレスパイトサービスの提供を中心に展開してきました。一方で、急性期から脱せずに病院での治療を必要とする子どもたちも、行動制限や治療に伴い大きなストレスにさらされており、レスパイトケアが必要とされていることから、2014年度より支援の枠を広げていくことを計画しています。

大項目	中項目	法人名	事業名	備考
日常の支援	施設整備	未定	難病児のためのデイサービス拠点の整備	新規
	ソフト事業	(一社)こどものホスピスプロジェクト	難病児の訪問型レスパイトサービスの提供	新規
非日常の支援	施設整備	(一社)奈良親子レスパイトハウス	小児レスパイト施設「奈良親子レスパイトハウス」の改修	新規
		(公財)そらぶちキッズキャンプ	難病児専用キャンプ場「そらぶちキッズキャンプ」の医療設備・キャンプ遊具の整備	新規
	ソフト事業	(認特)難病のこども支援全国ネットワーク	難病の子どもと家族のファミリーキャンプ「がんばれ共和国」の開催	継続(2年目)
		(公社)日本糖尿病協会	小児糖尿病(Ⅰ型糖尿病)児のサマーキャンプの開催	継続(2年目)
		(公財)そらぶちキッズキャンプ	小児難病児のサマーキャンプの開催	新規
		(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	ウィッシュバケーションの開催	継続(2年目)
		(特)スマイリングホスピタルジャパン	入院中の子どもたちへのアートによるレスパイト提供	新規
		(特)日本クリニックラウン協会	クリニックラウンの育成	新規
		(特)チャイルド・ケモ・ハウス	若者世代の小児がん患者へのサポートプログラムの提供	新規
実務者ネットワーク	(公財)そらぶちキッズキャンプ	小児ホスピスの実務者ネットワークの構築	継続(2年目)	
その他(啓発事業)	(公社)難病の子どもとその家族へ夢を	ドキュメンタリー映画の作成	新規	
		計9団体(未定の団体含まず)	計13事業	

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

1. 日常の支援

1-1<施設整備>



(1) 難病児のためのデイサービス拠点の整備 新規

- ①支援団体 : 未定 (国内7ヵ所での実施を予定)
- ②支援金額 : 250,000,000円
- ③事業内容 : 医療と福祉の両方の制度を活用した、医療依存度の高い子どもを日中に預かる施設を整備します。

1-2.<ソフト事業>



(1) 難病児の訪問型レスパイトサービスの提供 新規

- ①支援団体 : (一社)こどものホスピスプロジェクト (大阪府)
- ②支援金額 : 6,000,000円(事業費総額:6,000,000円)
- ③事業内容 : 在宅の難病の子どものケアをする家庭を対象に、専門スタッフが訪問し、病状や家族の希望に応じたレスパイトサービスを提供します。

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

2.非日常の支援 2-1<施設整備>

(1) 小児レスパイト施設「奈良親子レスパイトハウス」の改修 新規



- ①支援団体：(一社)奈良親子レスパイトハウス(奈良県)
- ②支援金額：15,000,000円(事業費総額：15,000,000円)
- ③事業内容：本団体は東大寺の境内および僧房の提供を受けて、2010年より親子レスパイトを実施しています。今回、難病の家族が利用する上で不都合のあった厨房及び浴室を改修し、利用者の利便性の向上と、プログラムの充実を図ることを目的に施設の整備を実施します。

(2) 難病児専用キャンプ場「そらぶちキッズキャンプ」の医療設備・キャンプ遊具の整備 新規



- ①支援団体：(公財)そらぶちキッズキャンプ(北海道)
- ②支援金額：12,000,000円(事業費総額：12,000,000円)
- ③事業内容：北海道滝川市に16haの敷地を持つ難病児専門のキャンプ施設。キャンプの自主開催および他団体への貸し出しを行っています。今回は停電が発生した際の緊急時の医療ケア体制を充足するために無停電装置を整備します。また、車いすの患児にアクティビティを楽しんでもらえるように、ツリーハウスに併設した遊具を設置します。これらの整備によって、難病児キャンプのアジア圏域のモデル施設として役割を期待できます。

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

2.非日常の支援 2-2<ソフト事業>

(1) 難病の子どもと家族のファミリーキャンプ「がんばれ共和国」の開催 継続 (2年目)



- ①支援団体 : (認特)難病のこども支援全国ネットワーク (東京都)
- ②支援金額 : 8,000,000円(事業費総額:8,000,000円)
- ③事業内容 : 難病の子どもをもつ家族を対象とした、サマーキャンプの開催。
医療ボランティアのサポートにより、大自然の中で友だちを作ります。
- 開催場所 : 2ヵ所 (神奈川県 沖縄県)
- 参加者 : 各150名 合計300名
- 開催時期 : 夏休み期間 (7月末~8月末) 2泊3日

(2) 小児糖尿病 (I型糖尿病) 児のサマーキャンプの開催 継続 (2年目)



- ①支援団体 : (公社)日本糖尿病協会 (東京都)
- ②支援金額 : 8,800,000円(事業費総額:17,600,000円)
- ③事業内容 : 小児糖尿病の患児とその家族を対象としたキャンプの実施。
沢遊びやキャンプファイヤーなどを楽しむと同時にインスリン自己注射や食事制限、低血糖への対処などセルフケアの学習を行います。
- 開催場所 : 全国47都道府県48ヵ所
- 参加者 : 患児1,100名 ボランティア等4,200名
合計5,300名
- 開催時期 : 主に夏休み期間 (7月末~8月末)
期間は場所によって異なります。

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

2.非日常の支援 2-2<ソフト事業>



(3) 小児難病児のサマーキャンプの開催 新規

- ①支援団体 : (公財)そらぷちキッズキャンプ (北海道)
 - ②支援金額 : 4,500,000円(事業費総額: 4,500,000円)
 - ③事業内容 : 北海道滝川市にある豊かな自然に囲まれた難病児専門キャンプ施設にて、森遊びやホースセラピーなどの様々なキャンププログラムを提供するものです。
- 開催場所 : 北海道滝川市
参加者 : 10家族25名 ボランティア30名 合計55名
開催時期 : 夏休み期間中を予定

(4) ウィッシュバケーションの開催 継続 (2年目)



- ①支援団体 : (公社)難病の子どもとその家族へ夢を (東京都)
 - ②支援金額 : 4,950,000円(事業費総額: 4,950,000円)
 - ③事業内容 : 東京ディズニーリゾートやユニバーサルスタジオ・ジャパン、浅草、美容院など、普段は出来ない夢の家族旅行(ウィッシュバケーション)を提供するものです。また、本バケーションに参加した家族がホストとなって、支援者を招待するサンクスギビングパーティーの開催も行い、家族と支援者の絆を深めていく活動です。
- 開催場所 : 千葉、東京、大阪、九州のテーマパークや観光施設など
参加者 : 難病の子供とその家族 30家族
開催時期 : 子どもの病状に合わせて実施

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

2.非日常の支援 2-2<ソフト事業>

(5) 入院中の子どもたちへのアートによるレスパイト提供 新規



- ①支援団体 : (特)スマイリングホスピタルジャパン (東京都)
 - ②支援金額 : 2,500,000円(事業費総額: 2,500,000円)
 - ③事業内容 : 小児病棟等の患児への訪問に際して、マジシャンや画家、演奏家などプロのパフォーマーを派遣し、患児に対する緩和ケアを行います。
- 開催場所 : 東京、神奈川、京都、宮城など医療施設の
小児病棟
- 開催回数 : 18回
- 参加者 : 各20名 合計80名

(6) クリニクラウンの育成 新規



- ①支援団体 : (特)日本クリニクラウン協会 (大阪府)
 - ②支援金額 : 4,000,000円(事業費総額: 4,000,000円)
 - ③事業内容 : 「クリニクラウン」とは、病院を意味する「クリニック」と道化師をさす「クラウン」を合わせた造語です。
- クリニクラウンは、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長をサポートします。
- 本事業ではその担い手となるクリニクラウンを育成するものです。育成後は本協会に所属し、全国の病院で活躍します。

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

2.非日常の支援 2-2<ソフト事業>

(7) 若者世代の小児がん患者へのサポートプログラムの提供 新規



- ①支援団体 : (特)チャイルド・ケモ・ハウス (兵庫県)
- ②支援金額 : 3,400,000円(事業費総額: 3,400,000円)
- ③活動内容 : 主に中高生など思春期、若成人期の小児がん患者を対象として、日常生活を送る上での悩みを抽出し、ケアプログラムを作成するものです。

この世代のがん患者には、進学や就職などのライフイベントが待ち受けているものの、闘病生活による制約により、進学や就職に困難を伴うことが少なくなく、退院後の社会復帰に支障をきたすことがあることから、本事業の実施により対応策の検討を行い、ケアプログラムの提供を現実化することで、小児がん患者の退院後のQOL向上を図ります。

3.難病児支援実務者のネットワーク

(1) 小児ホスピスの実務者ネットワークの構築 継続(2年目)



- ①支援団体 : (公財)そらぷちキッズキャンプ (北海道)
- ②支援金額 : 2,700,000円(事業費総額2,700,000円)
- ③事業内容 : 主にTOOTH FAIRYで支援している小児ホスピス、レスパイト活動を行う団体の実務者が集まり、事例や課題の共有を行うことで、相互連携を行い、それぞれの活動のレベルアップにつなげます。

実施場所 : 東京及び、先駆的な活動を行っている団体の所在地

実施回数 : 3回

チャレンジキッズプロジェクト 2014年度事業計画(案)

4.その他(難病の子どもとその家族の生活の理解促進をはかる事業)

(1) ドキュメンタリー映画の作成 新規



- ①支援団体：(公社)難病の子どもとその家族へ夢を(東京都)
- ②支援金額：3,900,000円(事業費総額：18,530,000円)
- ③事業内容：難病の子どもとその家族への理解推進のため、ドキュメンタリー映画を作成し、全国各地で上映するものです。

【貧困による負の連鎖が課題】

発展途上国に見られる貧困の原因は様々な要因が重なり合った結果起きるものですが、貧困による負の連鎖が続くことが、共通の、そして非常に大きな問題として捉えられています。家庭が貧困状況にある場合、その家庭に育った子どもには児童労働の問題が発生します。児童・学童期からの労働は、例外なく単純労働、重労働であり、その結果、子どもたちは学校に通うことができなくなります。

子どもを対象に活動を行っている国連機関や国際NGOなどは、貧困の環境の中にいる子どもに対して、図1にある「衛生」「健康」「経済」の援助を行うことが貧困解決のカギであることを示しています。この全ての援助の土台となるのが基礎教育支援です。基礎教育を受けることがなかった子どもたちは、読み書き、計算ができず、一般的な常識も不足することから、成長後も安定した収入を得る仕事に就くことができず、その子どもたちも同じように貧困状態に陥ってしまうのです。質の良い基礎教育の環境を構築することは、結果としてその他の分野の課題も波及的に解決できる可能性を期待することができ、子どもたちの貧困対策を行う上で最も優先しなくてはならない援助といえます。

基礎教育の充実を目指した学校建設は過去に数多く行われてきました。しかし、建物を建てて終了という取り組みが多く、建設後、学校以外の目的に使用されていたり、建物は建っても先生が不在であるなどの事態も散見されます。学校建設支援では、建設後の持続的な学校運営をいかに担保するか、が大きな課題となっています。



図1 子供の貧困解決のための代表的な援助分野(出典:ユニセフ、プランインターナショナル)

スクールプロジェクト コンセプト



【教育支援と村落開発支援】

開発途上国の貧困解決には、教育支援が重要ですが、その際、同時に村落の開発支援を行うことが非常に大切です。学校の維持運営には、修繕費の確保、教師の確保など継続的な資金が必要ですが、政府からの支援が十分に行き届いているケースは都市部を除き皆無と言っても過言ではありません。このために、村落の地域開発収益事業を同時に立ち上げると共に、適切なバックアップを行うことが不可欠となります。

TOOTH FAIRYでは、校舎の建設後に、村人による地域開発委員会を設置。マイクロクレジットや小規模水力発電、共同農園経営などの地域開発収益事業の原資提供、計画策定・運営指導を行います。校舎の建設と運営資金を確保することで、子どもたちが学校に通える環境が整い、質の高い教育の機会を提供することが可能となっています。

【支援対象国にミャンマーを選ぶ理由】

ミャンマーは2011年3月のテイン・セイン政権発足後、民主化に向けた改革が急ピッチで進んでいます。民主化を進める上で、諸外国からの支援が不可欠であること、また、民主化を求めてきた日本としても、今が、最も効果的な支援ができるタイミングであることが挙げられます。

ミャンマーの都市部にあっては各国の活発な経済投資や政府のインフラ投資で急速な経済成長が進んでいます。しかし、民主主義を半世紀経験していないミャンマーでは、民主的な法律や制度の理解と運用能力が不足しており、なかでも最大の課題は少数民族や自然災害対策です。多民族国家ミャンマーには、約7割を占めるビルマ族のほか、100を超す少数民族が厳しい環境の山岳地帯に住み、農村地帯では頻発する自然災害のためにこれまでも貧しい生活を余儀なくされてきました。

開発が大都市に偏れば、少数民族地域、農村地域との格差は一層拡大し、大都市の発展を横目に、民主化の恩恵を受けられずに厳しい生活から抜け出せない彼らの不満はますます高まることが予想されます。TOOTH FAIRYでは、政府や、他の国際援助団体の支援の手が行き届いていないミャンマーの少数民族地域や農村地域への支援を行うことで、民間ならではの国際協力を進めていくことを目指しています。

また、学校建設支援を行う上で、ミャンマー政府教育省との調整・連携は不可欠です。日本財団は、TOOTH FAIRYの支援を受けて実施している学校建設支援の他に、2万8000村への伝統医薬品の配置、Mobile Clinicによる巡回診療や地雷被害者に対する義足配布事業、薬草栽培の普及にも力を入れています。これらが評価され、平成24年6月からは当財団会長の笹川陽平が日本政府から「ミャンマー少数民族福祉向上大使」の委嘱を受けています。TOOTH FAIRYの資金を確実に役立てることのできる開発途上国という視点からも、本プロジェクトで取り組む貧困支援、教育支援については、当面の間ミャンマーを対象とすることが、最も効果をあげられるものと考え、対象国として提案させていただいています。

スクールプロジェクト 2013年度までの成果



小学校建設事業としては当初から50校建設の目標を掲げており、2010年にはシャン州北部に小学校が10校※建設されました(支援総額:24,771,000円)。

10校を建設した2010年度以降は、国内の難病支援大型プロジェクトを予定していたため、学校建設事業は一旦中断し、その間ミャンマーでの歯科交流を実施しました。2011年度には歯科交流・歯科検診のために日本歯科医師会役員2名がシャン州へ訪問、2012年度には日本歯科医師会会員歯科医師9名訪問、2013年度には同10名訪問し、無歯科医村での予防教育を進めていただきました。

事業の成果としては、建設した10校で2000名以上の子どもが教育を受けられるようになった他、小規模農業融資や共同農園経営などの村落開発プロジェクトにより、その収益を教員確保や学校備品補充などに充て、順調に学校の運営がすすめられています。

また、日本の歯科医師の訪問により予防・口腔ケアの啓発活動を行った学校では、歯磨きや、むし歯予防の認識が高まり、先生の指導として定着しつつある状態にあり、大きな成果を上げています。

※建設された10校:

Ngoon Inn、Tein Lon、Maing Yu、Nam Sa Latt、Lashio No 26、Nam Khaik、Man Maing、Lon Wai、Sa Khan Thar、Ho Kho No.1

(1) 学校10校建設 2009年度実施

- ①支援団体 : セダナー
- ②支援金額 : 24,771,000円(事業費総額:24,771,000円)
※(2)学校運営のための小規模ビジネス実施と合算
- ③事業内容 : 学校建設
場所 : ミャンマー シャン州



スクールプロジェクト 2013年度までの成果

(2) 学校運営のための小規模ビジネス実施 2009年度実施



- ①支援団体 : セダナー
- ②支援金額 : 24,771,000円(事業費総額: 24,771,000円)
※(1)学校10校建設 2009年度実施と合算
- ③事業内容 : 小規模農業融資や共同農園経営などの村落
単位による小規模ビジネス実施
場所: ミャンマー シャン州

(3) 歯科交流 2011～2013年度実施



- ①事業内容 : 歯科検診
- 場所 : ミャンマー シャン州
- 時期 : 2011年度: 日本歯科医師会役員2名訪問
2012年度: 歯科医師9名訪問
2013年度: 歯科医師10名訪問

スクールプロジェクト 支援団体の選定方法・プロセス



<支援団体の選定方法>

NPO れんげ国際ボランティア会は、国際教育支援団体として20年以上の実績を持つ団体です。今回、イラワジ地域での学校建設を進めるにあたって、日本財団のコンセプトに基づいた事業をすすめて頂くパートナーとして、イラワジ地区に事務所を開設していただき、日本財団が運営面を全面的にバックアップしています。

ミャンマーオフィス代表の平野氏は、日本財団が行う学校建設のシャン州でのプロジェクトパートナーであるNGOセダナーの立ち上げメンバーであり、日本財団の学校建設支援を熟知し、現地語にも堪能であることから、今回のイラワジ地域でのプロジェクトの総責任者として着任していただいた経緯があります。

<事業予算の規模の決め方について>

TOOTH FAIRYプロジェクトの年度予算は、原則として、前年度の繰越金の範囲内で予算化しています。従いまして、当該年度の収入は年度内には使用せず、次年度の予算として繰り越し、予算規模を調整しています。

なお、団体の選定につきましては、コンセプト及び目標に沿っており、一定以上の成果をあげられる見込みが高い団体・事業を選定することとしているため、結果として計画した予算を下回る可能性があります。（予算を使い切ることを第一目的に事業選定をしておりません。）

スクールプロジェクト 目標



【数的目標】

貧困や学校の不足から学校に通うことのできないミャンマーの少数民族が多く居住するシャン州及びヤンゴン南西部のイラワジ地域に今後5年間で40校の学校を建てることを目標とします(TOOTH FAIRY校合計50校)。本事業は、上記の通り学校建設だけでなく、地域開発収益事業を同時に行うモデル的な事業ですが、50校という数は、モデル事業の成果が明確となる一定以上の規模であり、また、本支援が日本歯科医師会及び日本の歯科医師の協力による民間国際援助で実施されたことが、国際的にも高い評価を確立することにつながる規模であることから設定しました。

【状態目標】

学校建設を通じた地域開発事業の状態目標は以下のとおりです。

1. 校舎建設と収益事業の両面の支援により、子どもたちが教育を継続的に受けられる状態。
2. 正規教育を受ける環境を整備し、高等教育への進学率が同地区他校と比較し高い状態。
3. トイレ・糞水タンクを学校に設置。地域全体の公衆衛生が向上している状態。
4. 日本の子どもたちとの交流を通じ、お互いの暮らしを知り学び合う機会の創出。※
5. TOOTH FAIRY 歯科ボランティアツアーを実施。

村の口腔教育により村人が口と歯の大切さについて理解を深めている状態。

6. ミャンマー医師会(MMA)と提携し、学校を拠点とした保健衛生改善事業(財団助成事業)を2015年にスタート。

この事業の一環として、口腔ケアの巡回啓蒙教育などの実施し、地域の保健衛生・口腔衛生状況が改善されている状態。(本事業実施に関しましては、別途日本歯科医師会にご相談申し上げます。)※

※4 詳細は計画中。

※6 MMAと実施概略について合意済み。

スクールプロジェクト 2014年度事業計画(案)

(1) ミャンマーの少数民族地域、農村地帯に対する学校建設



①支援団体 : NPO れんげ国際ボランティア会

②支援金額 : 500,000米ドル

(約50,000,000円/ 1校約600万円*8校)

※支援金額は、為替レート及び年度内建設費用の変動により変わる可能性があります。

※イラワジは洪水およびハリケーン多発地帯につき、建築物を強固にする必要があるため（一部地域では高床式を採用）、平均62,500米ドル/1校（村落開発費を含む）と想定しています。

③対象地域 : ミャンマー連邦共和国イラワジ地域

④建築校数 : 8校

⑤平均仕様 : 30×120フィート

鉄筋レンガ造りで外壁はコンクリート仕上げ。

机、イス、黒板、貯水タンク、トイレ付

⑥受益者層 : 生徒約2,000名(8校)、先生、保護者を中心とした村全体

⑦工期 : 2014年9月～2015年3月（予定）

⑧その他 : 本事業には、村落開発事業として、各学校建設地域において小規模水力発電や農園経営などの収益事業を立ち上げる費用を含みます。

地域が自立的・持続的に学校を運営できる環境を整備するものとします。

※事業地決定（開発事業に自立的に取り組める村落の選定）に時間を要し、事業実施が1か年遅れましたことをお詫びいたします。

収支計画案